

平成28年度 研究評価報告書【畜産試験場】

1 概要

試験・研究開発の一層の効率化と研究ニーズに即応した新技術の早期開発を図るため、「福井県農林水産試験研究評価実施要領」および「福井県農林水産業活性化支援研究評価会議設置要領」に基づき、研究課題の選定、進捗状況および進行管理、研究成果および研究終了後の成果の普及状況等について検討・判断された。

(1) 開催日時 平成28年7月27日 9時00分～13時30分

(2) 開催場所 畜産試験場

(3) 評価会議出席者

① 評価委員

塩谷 繁	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 畜産草地研究所企画管理部長
高橋 正和	公立大学法人福井県立大学生物資源学部 准教授
山崎 洋子	NPO法人 田舎のヒロインズ
川口 孝誠	福井県第一食肉協同組合 理事（株式会社カワグチ 社長）
立尾 清美	芦原温泉女将の会副会長（芦原温泉白和荘女将）
松谷 隆広	福井県農林水産部生産振興課 参事（生産振興課 山本課長代理）

② 畜産試験場

向井 寿輔	場長
高畑 良枝	管理課長
松井 司	家畜研究部長
柘田 靖憲	企画支援室長

各グループリーダーおよび担当職員

2 評価結果

課題評価は、研究課題ごとに担当者から研究の背景、目的、内容、実施方法および成果などについて説明を行った後、委員との質疑応答により評価を受けた。

各評価委員の平均を総合評価とし、さらに指導、意見をコメントとして受けた。

事前評価：1 課題 B 評価

事後評価：1 課題 B 評価

追跡評価：1 課題 B 評価

研究課題別の詳細は、研究課題別評価結果に記載し、今後の研究開発の推進、成果の普及方法等に活用する。

3 研究課題別評価結果

(1) 事前評価

1	研究課題	乾乳期間短縮による乳生産性および健全性向上技術の開発	総合 評価	B
	研究期間	平成29年度～平成32年度		
	研究目的 および必要性	乳生産性を向上させるため、乾乳期の短縮による泌乳持続性の高い飼育法を検討し供用年数の延長を図るとともに、抗生物質を使用しない乳房炎予防液を検討し、畜産物の安心面・安全性を高める技術を開発する。		
	主な意見	<ul style="list-style-type: none"> 牛のストレスを軽減して酪農経営を安定化するために必須の研究 経済効果について、労賃、1乳期の乳量、各試験区の飼料構成と飼料費などを検討すること。 in vitro 試験において供試サンプルの選択・供試菌株の選択肢を広く設定し、様々なデータから最適な予防液を出していただきたい。 高泌乳量、高脂肪の乳質一辺倒の飼育法ではなく、牛に無理のない飼育法に対する消費者の理解を深める取組みが必要。 		

(2) 事後評価

1	研究課題	乳牛への飼料用籾米（イネSGS）給与技術	総合 評価	B
	研究期間	平成〇〇年度～平成〇〇年度		
	研究目的 および必要性			
	主な意見	<ul style="list-style-type: none"> 水田地帯で畜産が地域に貢献し、経営の安定化にもつながる技術 マニュアルにはSGSの製造に関する記載で乳酸菌添加が必須であること、給与順（粗飼料を先に）を記載すると良い。 各農家が飼料用米の形態を選択、工夫が大切。 耕種農家自らがサイレージ調製技術を身につけてイネSGSを生産できるような技術普及に努めること。 		

(3) 追跡評価

1	研究課題	福井県に適するイネホールクロップサイレージ専用品種	総合 評価	B
	研究期間	平成〇〇年度～平成〇〇年度		
	研究目的 および必要性			
	主な意見	<ul style="list-style-type: none"> 今後の気候変動（温暖化）によって食用イネの作付時期が遅くなるようであれば、専用品種との交雑防止や収穫時期に注意を払う必要がある。 輸入飼料に対する大きな柱になる技術。 普及指導員と連携し情報提供や技術指導を充実させること。 		